

あらすじ

ガレット 102

私は、何でも売っている古びた食料品店を営んでいる。お客である下田のおばあちゃんから、自分が大家であるアパートに、パトカーが来ているので、一緒に見に行つてほしいと頼まれる。二人で見に行つてみると、警察官と児童相談所と市役所の職員が、黒田という家を訪問したところだった。黒田家の小学生がずっと登校していないので、調べにきたとのことだった。黒田家の母子は、母親が新型コロナ関連で失業したために、気鬱になり、ゴミだらけの部屋に二人で閉じこもっていた。やがて、疎遠にしていた祖母がパツカーとともによつてきて、すべてを捨てて、部屋と母子を救おうとするが、黒田家の母親は、すべてを捨ててしまった自分の母親に反発し

「何が必要で必要でないのか、誰が決めるのか」と叫ぶ。